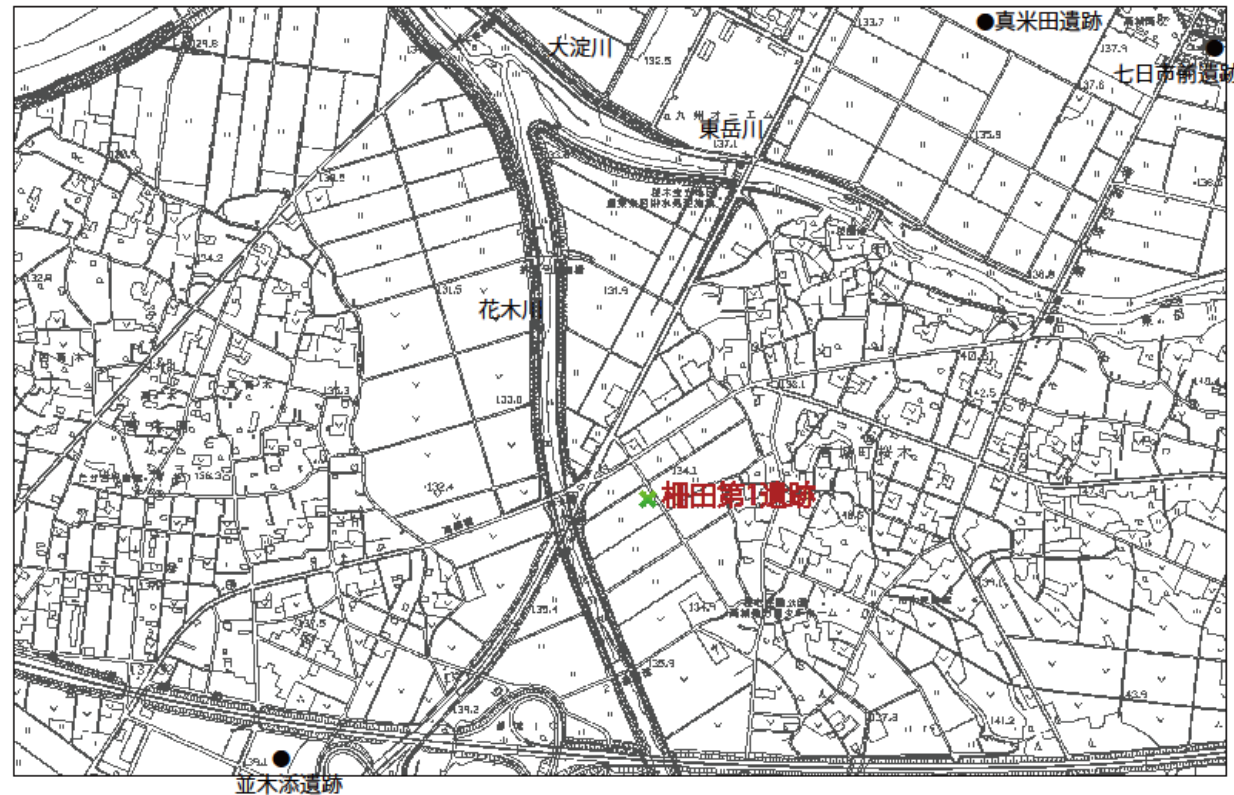


柵田第1遺跡発掘調査現地説明会資料

- 1 遺跡名：柵田（からみだ）第1遺跡
- 2 所在地：都城市高城町桜木
- 3 調査面積：約 17000 m²
- 4 調査期間：
 - ・確認調査期間 平成 29 年 1 月 31 日～3 月 10 日
 - ・本調査期間 平成 30 年 1 月～令和 2 年 4 月末
- 5 調査原因：都城インター工業団地桜木地区（南工区）造成事業
- 6 遺構 奈良～平安時代：竪穴建物跡 2 基、掘立柱建物跡 4 棟、土坑 4 基、周溝状遺構 1 基、溝状遺構、道路跡、水田跡
 室町～江戸時代：溝状遺構、水田跡
- 7 遺物 奈良～平安時代：土師器、須恵器、国産施釉陶器、土錘など
 室町時代～江戸時代：国産陶器、国産磁器、貿易陶磁器など

- 8 概要：柵田第1遺跡は大淀川支流の花木川北側の氾濫原面に立地している。遺跡の標高は、約 134.5m で現況は水田である。当遺跡の特徴は、平安時代前期のものと思われる集落跡とそれと同時期の水田が見つかったことである。集落跡は地表から約 50cm 下で発見され、遺物から平安時代前期のものと思われる。水田を区画する大畦畔も見つかり、真北を向いている。当遺跡は平安時代から土石流の被害を何度も受けており、その度に水田を作り直していることがわかった。土石流によって形成された起伏を利用して高地に集落を作り、低地に水田を営んでいたと考えられる。

集落内の建物跡は真北方向に基準を揃えている。加えて大畦畔等の主軸も同様であることを考慮すると、集落が計画的な配置の下に造営されたことが分かり、本市内でも貴重な事例となることが明らかとなった。



柵田第1遺跡古代遺構平面略図

発見された主な遺構

集落跡

しゅうこうじょういこう 周溝状遺構

幅が約1m～1.5mで深さは浅く、円形に掘っている。北側は掘り込みが途絶えており、「C」の様な形になっている。遺物は土師器、須恵器が主体であるが、灰釉陶器の破片も出土した。全国的に見ると、周溝の中に柱跡などが見つかることがあるが、この周溝は見つかっていない。そのため、用途は不明である。

たてあなたてもものあと 竪穴建物跡

2基見つかっている。2基とも方形で、約3m四方と同規模であり、共に煙道（かまどの煙出し）を伴っている。

竪穴建物跡1からは、12個の土錘が連なった状態で発見されたことが注目される。出土状況から元々は紐などでつながれていたが、紐だけが劣化でなくなってしまう、土錘のみが残ったと考えられる。

竪穴住居2からは、建物中央で深い土坑（規模は90cm×110cmで深さが約50cm）が見つかっている。土坑の床面からは炭が一面に確認された。

ほったてばしらたてもものあと 掘立柱建物跡

4棟見つけた。4棟とも桁3間（約6～7m）×梁2間（約4～5m）とほぼ同規模である。この内、2棟は庇が見つかっている。

水田跡

だいきいはん 大畦畔（水田のあぜ）

集落域の南で検出された。幅約3.5m、高さ約0.2～0.3mの規模で集落南端付近から真南に走行している。調査区南西の水田面では、この大畦畔と同じ軸を持つ小畦畔も見つかっており、水田小区画が存在していたことが推定される。



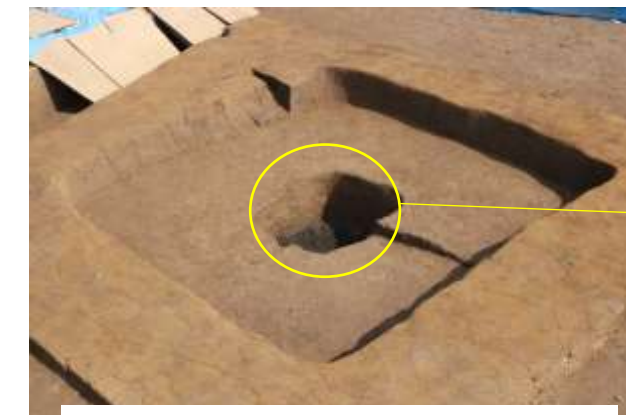
←周溝状遺構完掘写真



竪穴建物跡1



竪穴建物跡1 土錘出土状況



竪穴建物跡2



竪穴建物跡2 土坑 炭検出



←大畦畔